

○基本情報

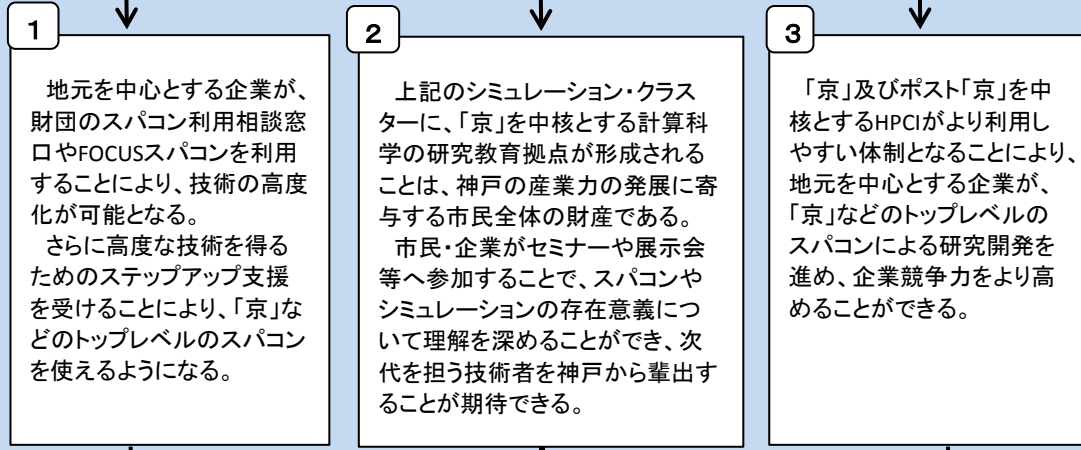
記載日 平成27年12月11日

団体名	公益財団法人計算科学振興財団	所管局名	企画調整局
設立目的	スーパーコンピュータの活用による研究開発、スーパーコンピュータの産業利用及び普及啓発に関する事業を行うことにより、京を中核とする計算科学の研究教育拠点を形成するとともに、計算科学分野の振興と産業経済の発展に寄与することを目的とする。		

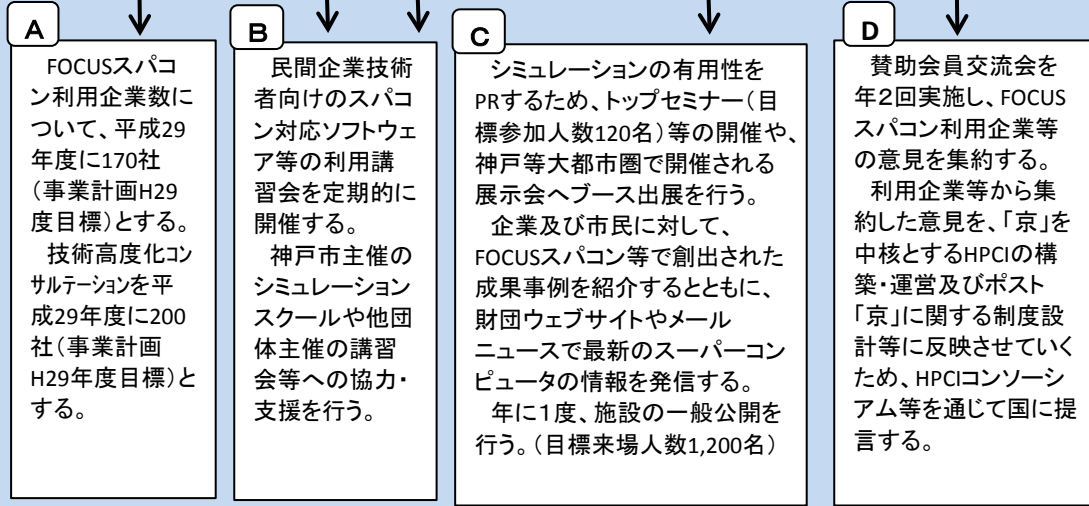
M 市が団体に求めるミッション Mission

長期	スーパーコンピュータの活用による研究開発、スーパーコンピュータの産業利用及び普及啓発に関する事業を行うことにより、神戸医療産業都市におけるシミュレーション・クラスターの中核として理化学研究所計算科学研究センターと協力し、計算科学の研究教育拠点を形成するとともに、計算科学分野の振興と産業経済の発展に寄与すること。
5年	1・・・FOCUSスパコンによるスパコン産業利用の裾野拡大とシミュレーション技術の高度化を推進すること 2・・・シミュレーションを活用した市内企業の活性化と普及啓発をしていくとともに市民に対してシミュレーションの広報をしていくこと 3・・・国のスパコン政策に関する産業界コミュニティの意見を集約し、産業界ニーズを反映させていくこと

V 市民に提供する価値 Value



T 事業目標 Target



平成29年度 ミッションの達成評価シート1 [1次評価]

		記載日	平成30年9月11日
団体名	公益財団法人計算科学振興財団	所管局名	企画調整局

○団体による自己評価[1次評価]

事業No.	1-A	主要事業(様式1-3)との関わり	あり(事業番号: 1)
H29事業目標	FOCUSスパコン利用企業数について、平成29年度に170社とする。 技術高度化コンサルテーションを平成29年度に200社とする。		
H29実績評価	平成29年度FOCUSスパコン利用企業数については、過去最高の171社に到達し、利用企業の累計は275社となった。平成23年度の共用開始以来、毎年利用企業は着実に増加しており、スパコン産業利用の裾野拡大に大きく貢献している。 また、同一企業内で複数部署が利用する企業内での横展開も年々増加し、利用課題数は223課題(平成28年度207課題)に至り、更なる利用の拡大が進んでいる。 技術高度化コンサルテーションについては、平成29年度233社に実施した。コンサルテーションを実施した233社のうち、半数以上の126社が新規法人であることから、今後の「FOCUSスパコン」の新たな利用が見込まれ、さらなるスパコン産業利用の裾野拡大につながるものと期待できる。		評価 S A B C
H30事業目標	FOCUSスパコン利用企業数について、計算資源量に応じ、平成30年度に170社とする。 技術高度化コンサルテーションを平成30年度は150社/年と絞り込み、中身の充実を図り、さらなる利用拡大を図る。		
評価担当者	総務担当課長 山下ゆかり		

事業No.	2-B	主要事業(様式1-3)との関わり	あり(事業番号: 1)
H29事業目標	民間企業技術者向けのスパコン対応ソフトウェア等の利用講習会を引き続き定期的 に開催するほか、利用者ニーズに応じた講習会の拡充を図る。 神戸市主催のシミュレーションスクールや他団体主催の講習会等への協力・支援を行 う。		
H29実績評価	FOCUSスパコン利用講習会や神戸大学、兵庫県立大学と連携した講習会 等を月に10回程度開催し、平成29年度は合計179回の講習会を実施した。 平成28年度の講習会受講者はのべ946人であったが、平成29年度はのべ 988人となり、シミュレーション経験者だけでなく、初心者に向けても広く講習 会を実施した。 神戸市主催のシミュレーションスクールや他団体主催の講習会等につい て、共催、後援、協力として様々な協力・支援を行った。具体的には、講師の 派遣や実習室の提供、講習会の広報に協力を行った。 以上により、シミュレーション技術の普及啓発や裾野拡大、シミュレーション の高度化をさらに推進することができた。		評価 S A B C
H30事業目標	民間企業技術者向けのスパコン対応ソフトウェア等の利用講習会を引き続き定期的 に開催するほか、利用者ニーズに応じた講習会の拡充を図る。 神戸市主催のシミュレーションスクールや他団体主催の講習会等への協力・支援を行 う。		
評価担当者	総務担当課長 山下ゆかり		

平成29年度 ミッションの達成評価シート1 [1次評価]

		記載日	平成30年9月11日
団体名	公益財団法人計算科学振興財団	所管局名	企画調整局

○団体による自己評価[1次評価]

事業No.	2-C	主要事業(様式1-3)との関わり	あり(事業番号: 1)
H29事業目標	<p>シミュレーションの有用性をPRするため、トップセミナー(目標参加人数120名)等の開催や、神戸等大都市圏で開催される展示会へブース出展を行う。</p> <p>企業及び市民に対して、FOCUSスパコン等で創出された成果事例を紹介するとともに、財団ウェブサイトやメールニュースで最新のスーパーコンピュータの情報を発信する。</p> <p>年に1度、施設の一般公開を行う。(目標来場人数1,200名)</p>		
H29実績評価	<p>トップセミナーについては、29年度は大阪で開催し、127名の参加があり、講演内容も好評であった。(平成30年2月2日開催)</p> <p>また、展示会(神戸、東京等)へのブース出展も神戸市と連携し積極的に行うことで更なるPRに努めた。</p> <p>FOCUSスパコン等で創出された成果事例を事例集(発行4,000部)として毎年度作成し、わかりやすく紹介するとともに、財団ウェブサイトやメールニュースで最新のスーパーコンピュータの情報を月2回発信した。</p> <p>また、一般市民向けのセミナー開催や施設の一般公開等により、市民に対してスパコンやシミュレーションの広報をすることができた。施設の一般公開には、1,700名(全体10,100名)の来場があった。(平成29年10月14日開催)</p>		<p>評価</p> <p>S</p> <p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>
H30事業目標	<p>シミュレーションの有用性をPRするため、トップセミナー(目標参加人数120名)等の開催や、神戸等大都市圏で開催される展示会へブース出展を行う。</p> <p>企業及び市民に対して、FOCUSスパコン等で創出された成果事例を紹介するとともに、財団ウェブサイトやメールニュースで最新のスーパーコンピュータの情報を発信する。</p> <p>年に1度、施設の一般公開を行う。(目標来場人数1,200名)</p>		
評価担当者	総務担当課長 山下ゆかり		

事業No.	3-D	主要事業(様式1-3)との関わり	あり(事業番号: 1)
H29事業目標	<p>賛助会員交流会を年2回実施し、FOCUSスパコン利用企業等の意見を集約する。</p> <p>利用企業等から集約した意見を、「京」を中核とするHPCIの構築・運営及びポスト「京」に関する制度設計等に反映させていくため、HPCIコンソーシアム等を通じて国に提言する。</p>		
H29実績評価	<p>賛助会員交流会を年2回実施し(平成29年7月25日・平成30年3月1日開催)、FOCUSスパコン利用企業等の意見を集約した。</p> <p>利用企業等から集約した意見を、「京」を中核とするHPCIの構築・運営及びポスト「京」に関する制度設計等に反映させていくため、HPCIコンソーシアム等を通じて国に提言した。</p> <p>また、『ポスト「京」に向けた産業利用・利用支援用スパコン(FOCUSスパコン)強化に関する要望』(平成30年3月26日)を文部科学省へ提出した。</p>		<p>評価</p> <p>S</p> <p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>
H30事業目標	<p>賛助会員交流会を年2回実施し、FOCUSスパコン利用企業等の意見を集約する。</p> <p>利用企業等から集約した意見を、「京」を中核とするHPCIの構築・運営及びポスト「京」に関する制度設計等に反映させていくため、必要に応じて国等への政策提言を行う。</p>		
評価担当者	総務担当課長 山下ゆかり		

平成29年度 ミッションの達成評価シート2 [2次評価]

		記載日	平成30年9月12日
団体名	公益財団法人 計算科学振興財団	所管局名	企画調整局

○所管局による総合評価(ミッションの達成評価)[2次評価]

コメント	<p>【ミッション毎の評価】</p> <p>1 FOCUSスパコンによるスパコン産業利用の裾野拡大とシミュレーション技術の高度化を推進すること……評価 A (上記評価の理由) 着実にFOCUSスパコンの産業利用数が増加し、スパコン利用企業の裾野拡大に大きく貢献している。また、200回を超えるコンサルテーション実施によりシミュレーション高度化の推進が行われているため。</p> <p>2 シミュレーションを活用した市内企業の活性化と普及啓発をしていくとともに市民に対してシミュレーションの広報をしていくこと……評価 A (上記評価の理由) 年間179回の講習会の実施や他団体の講習会の協力により、多くのシミュレーション人材の育成が行われている。また、積極的な展示会の参加や施設の一般公開により広くシミュレーションについての広報がおこなわれたため。</p> <p>3 国のスパコン政策に関する産業界コミュニティの意見を集約し、産業界ニーズを反映させていくこと……評価 A (上記評価の理由) 賛助会員の交流会やFOCUSスパコン利用企業を通じて産業界の意見集約が行われ、コンソーシアムでの意見や国への要望書提出を行うことにより、産業界のニーズを国の政策へ反映できるよう活動できたため。</p> <p>【総合評価の理由】 団体の事業や取り組みがメディアに取り上げられる等、高い評価を受けており、市が団体に求めるミッションの達成に向けて、着実に事業が進展しており、計算科学分野の振興と産業経済の発展に寄与しているため。</p>	総合評価
		<p>S</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>C</p>
対応方法	<p>(総合評価がB又はCの場合は必ず記載)</p>	
評価担当者	医療産業都市部 推進課長 葛原岳	